



# REST API を使用した Cisco APIC の設定

---

- [Cisco APIC クラスタの設定 \(1 ページ\)](#)
- [ファブリックの初期化とスイッチの検出 \(3 ページ\)](#)

## Cisco APIC クラスタの設定

### REST API を使用した APIC クラスタの拡大

クラスタは、実際のサイズを目標サイズに合わせます。目標サイズが実際のサイズよりも大きい場合、クラスタ サイズが拡大します。

#### 手順

---

**ステップ 1** APIC クラスタのサイズを拡大するために目標のクラスタ サイズを設定します。

例 :

```
POST
https://<IP address>/api/node/mo/uni/controller.xml
<infraClusterPol name='default' size=3/>
```

**ステップ 2** クラスタに追加する APIC コントローラを物理的に接続します。

---

### REST API を使用した APIC クラスタの縮小

クラスタは、実際のサイズを目標サイズに合わせます。目標サイズが実際のサイズより小さい場合、クラスタ サイズは縮小します。

#### 手順

---

**ステップ 1** APIC クラスタのサイズを縮小するため、目標のクラスタ サイズを設定します。

例 :

```
POST
https://<IP address>/api/node/mo/uni/controller.xml
<infraClusterPol name='default' size=1/>
```

### ステップ2 クラスタ縮小のための APIC1 上の APIC3 の解放

例 :

```
POST
https://<IP address>/api/node/mo/topology/pod-1/node-1/av.xml
<infraWiNode id=3 adminSt='out-of-service'/>
```

### ステップ3 クラスタ縮小のための APIC1 上の APIC2 の解放

例 :

```
POST
https://<IP address>/api/node/mo/topology/pod-1/node-1/av.xml
<infraWiNode id=2 adminSt='out-of-service'/>
```

## REST API を使用してアクティブ APIC とスタンバイ APIC を切り替える

REST API を使用してアクティブな APIC とスタンバイ APIC を切り替えるには、この手順を使用します。

### 手順

アクティブ APIC とスタンバイ APIC を切り替えます。

```
URL for POST: https://ip
address/api/node/mo/topology/pod-initiator_pod_id/node-initiator_id/av.xml
Body: <infraWiNode id=outgoing_apic_id targetMbSn=backup-serial-number/>
where initiator_id = id of an active APIC other than the APIC being replaced.
pod-initiator_pod_id = pod ID of the active APIC
backup-serial-number = serial number of standby APIC
```

例 :

```
https://ip address/api/node/mo/topology/pod-1/node-1/av.xml
<infraWiNode id=2 targetMbSn=FCH1750V00Q/>
```

# ファブリックの初期化とスイッチの検出

## スイッチの検出

### REST API を使用した未登録スイッチの登録

この手順を使用して、REST API を使用して [ファブリック メンバーシップ (Fabric Membership)] 作業ウィンドウの [保留中ノードの登録 (Nodes Pending Registration)] タブからスイッチを登録します。



- (注) この手順は、「REST API を使用したディスカバリ前のスイッチの追加」と同じです。コードを適用すると、システムはノードが存在するかどうかを判断し、存在しない場合はそのノードを追加します。ノードが存在しない場合、システムにより登録されます。

#### 手順

スイッチ説明を追加します。

#### 例 :

```
POST
https://<IP address>/api/policymgr/mo/uni.xml

<!-- /api/policymgr/mo/uni.xml -->
<polUni>
<ctrlrInst>
  <fabricNodeIdentPol>
    <fabricNodeIdentP nodeType="tier-2-leaf" podId="1" serial="XXXXXXXX"
      name="tier-2-leaf-leaf1" nodeId="101"/>
  </fabricNodeIdentPol>
</ctrlrInst>
</polUni>
```

### REST API を使用したディスカバリ前のスイッチの追加

この手順を使用して、REST API を使用して [ファブリック メンバーシップ (Fabric Membership)] 作業ウィンドウの [保留中ノードの登録 (Nodes Pending Registration)] タブにスイッチを追加します。



- (注) この手順は、「REST API を使用した未登録スイッチの登録」と同じです。コードを適用すると、システムはノードが存在するかどうかを判断し、存在しない場合はそのノードを追加します。ノードが存在しない場合、システムにより登録されます。

### 手順

スイッチ説明を追加します。

例：

```
POST
https://<IP address>/api/policymgr/mo/uni.xml

<!-- /api/policymgr/mo/uni.xml -->
<polUni>
<ctrlrInst>
  <fabricNodeIdentPol>
    <fabricNodeIdentP  nodeType="tier-2-leaf" podId="1" serial="XXXXXXXXX"
      name="tier-2-leaf1" nodeId="101"/>
  </fabricNodeIdentPol>
</ctrlrInst>
</polUni>
```

## グレースフル挿抜 (GIR) モード

### REST API を使用して、メンテナンス モードにスイッチを削除

REST API を使用して、メンテナンス モードにスイッチを削除するのには、次の手順を使用します。

### 手順

メンテナンス モードにスイッチを削除します。

例：

```
POST
https://<IP address>/api/node/mo/uni/fabric/outofsvc.xml

<fabricOOServicePol
  descr=""
  dn=""
  name="default"
  nameAlias=""
  ownerKey=""
  ownerTag="">
</fabricRsDecommissionNode
```

```
    debug="yes"
    dn=""
    removeFromController="no"
    tDn="topology/pod-1/node-102"/>
</fabricOOServicePol>
```

---

## REST API を使用した操作モードへのスイッチの挿入

REST API を使用して操作モードにスイッチを挿入するには、次の手順を使用します。

### 手順

---

操作モードにスイッチを挿入します。

#### 例 :

```
POST
https://<IP address>/api/node/mo/uni/fabric/outofsvc.xml
```

```
<fabricOOServicePol
  descr=""
  dn=""
  name="default"
  nameAlias=""
  ownerKey=""
  ownerTag="">
  <fabricRsDecommissionNode
    debug="yes"
    dn=""
    removeFromController="no"
    tDn="topology/pod-1/node-102"
    status="deleted"/>
</fabricOOServicePol>
```

